

がん治療の副作用に悩んでいませんか？

福井県済生会病院

がん治療サポート外来

のご案内

がん治療サポート外来 とは？

がんの治療を受けた後、体のつらさだけでなく、気持ちの不安や生活の悩みを感じる方は少なくありません。

この外来では、がん薬物療法と漢方診療の両方に専門的な知識をもつ医師が、症状やお気持ちにしっかり寄り添いながら、治療を行っています。

医療用漢方製剤を活用して、科学的な根拠にもとづいた治療を、一人ひとりの状態に合わせてご提案します。漢方薬は心にも届きますので、体だけでなく、こころも大切に、全人的な診療をめざしています。

▶ 対象となる方

- 手術や抗がん剤治療を終えたあとに、疲れやだるさ、気分の落ち込みなど、はっきりしない体調不良が続いている方
- がんの診断を受けてから、体や心の不調、不安などを感じている方
- 抗がん剤の影響で、食欲不振・全身倦怠感・手足のしびれや感覚のにぶさ（末梢神経障害）などの症状がある方

このようなお悩みがある方は、お気軽にご相談ください。

▶ 診察日

水、木曜日 午後（13:30 - 15:30）※要予約

▶ 担当医

もとお よしはる
元雄 良治 内科部長
集学的がん診療センター顧問



ご予約
方法

がん治療サポート外来希望と、
主治医にご相談ください。



社会福祉法人 恩賜 済生会支部
財団
福井県済生会病院

2025.05

体も心も楽になり、治療を続ける力になっています

7年前に大腸がんの手術を受け、その後の抗がん剤治療で手足のしびれが出ました。1年後には肺に転移が見つかり、治療を続けながら、口内炎や不安感も強くなっていました。

つらさを相談したくて「がん治療サポート外来」を受診。漢方薬の「半夏瀉心湯（はんげしゃしんとう）」と「人參養榮湯（にんじんようえいとう）」を使い始めると、しびれや不安が和らぎました。

今も体調に合わせて漢方を調整しながら、無理なく治療を続けられています。通院時に先生と話す時間も、気持ちの支えになっています。



(60代・男性)

痛みが楽になり、気持ちも前向きになれました

3年前に右の乳がんの手術を受けた後、パクリタキセルという薬で治療をしました。その後、右肩や腰、右ひざに強い痛みが出て、毎日の生活がとてつらくなりました。検査では骨への転移はなく、変形性関節症や関節炎とわかりました。

不安や心配も多く、主治医に相談したところ、「がん治療サポート外来」を紹介されました。私は冷え症もあり、いくつかの関節に痛みがあったため、漢方薬の「五積散（ごしゃくさん）」を出してもらいました。

飲み始めてから、痛みがやわらぎ、動くのが楽になってきました。通院を重ねる中で、先生に気になることをたくさん話せたことも、心の支えになりました。今では、前より元気に毎日を過ごせています。



(70代・女性)

担当医からのコメント

がん治療サポート外来では、実際にがん治療を受けていく中での口内炎・食欲不振・全身倦怠感・末梢神経障害などの身体的な症状の他、気分の落ち込み・治療継続への迷い・今後への不安などの精神的な症状、職場や家庭での悩み、さらには人生観・価値観などのスピリチュアルな悩みに対応します。もちろん担当医一人では対処できないことも多いので、多職種連携はしますが、その方向性を決める判断が重要と考えます。あくまでもサポートですので、現在の治療を根本的に変更するなどということはありません。また、がん体験者・サバイバーなど、一定の治療を終えて経過観察されている患者さんにも悩みはあるので、そうした受け皿でもあります。当外来は幅広い窓口ですので、どうぞお気軽にご紹介ください。



元雄 医師